

第162回くらしの植物苑観察会 2012年9月22日(土)

— 『日本竹譜』とその著者片山直人—

—

樋口雄彦（国立歴史民俗博物館 研究部歴史研究系 教授）

明治19年(1886)に刊行された『日本竹譜』(木版・和装、全3冊)という本がある。和漢三才図会・大和本草・農業全書・広益国産考・日本産物誌・博覧会出品解説など古今の文献38種を引用、参考にし、日本の竹の種類・生態・用途などについて説明したものである。駐日イギリス公使アーネスト・サトウは、竹好きでもあったことから、明治32年(1899)同書を英語に抄訳、日本アジア協会で口頭発表し、会報にも掲載した。

今回の観察会では、『日本竹譜』に収録された竹そのものに関する植物学的な解説はできないので、同書の著者である片山直人(1840~96)という人物について紹介してみたい。彼は旧幕臣であり、維新後は静岡藩の沼津兵学校に学んだ人であった。『日本竹譜』の校閲者である田中芳男も幕府の開成所で物産学を研究した人であり、また同書の挿画を担当した中島仰山は洋画や写真術を先駆的に学んだ旧幕臣であった。片山と『日本竹譜』をめぐる人脈からは、幕府から明治政府へとつながった博物学の系譜が読み取れる。

.....

**次回予告** 第163回くらしの植物苑観察会 2012年10月27日(土)  
 「洛中洛外図にみえる植物」 小島 道裕(国立歴史民俗博物館 歴史研究系教授)  
 13:30~15:30(予定) 苑内休憩所集合 申込不要